



「新潟県中越地震 新潟の大地 災害と生活」

高濱信行編著，新潟日報事業社発行

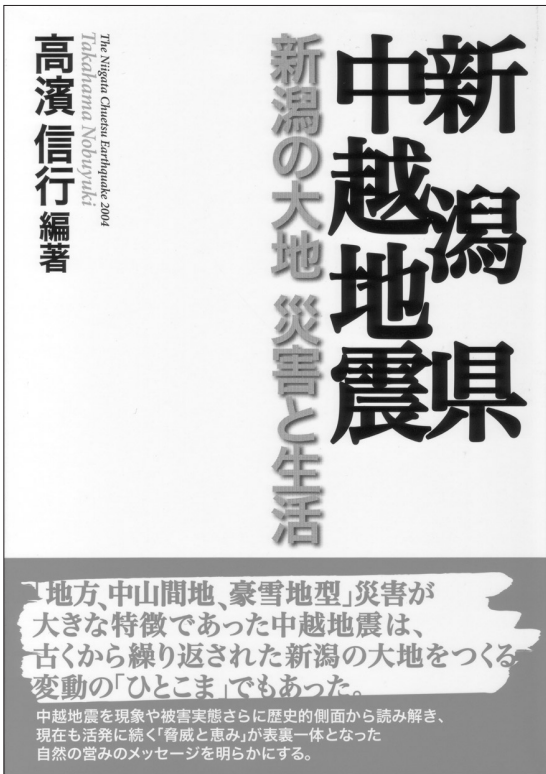
A5版，255p

2006年11月刊行，価格1,600円

ISBN4-86132-190-5

地震も山崩れも風雪も，自然災害の要素であると同時に，生きている地球の生理現象の一つである。それらを理解することは，防災・減災のための技術的基盤としてのみならず，地球の営みを解明する上で不可欠と言える。こうした自然災害科学の視点を背景に，これらの自然現象が人々に厄災のみならず恵みを与えてきたことが明らかにされている。すぐれた医者は病気だけでなく人そのものに対する深い理解をもつと言うが，同じことは自然災害研究についてもあてはまるのであろう。

さて，本書は新潟大学災害復興科学センターの研究者とその同僚たちによって書かれた，2004年新潟県中越地震とそれに引き続く豪雪災害について解説した一般向け普及書である。この本が他の災害解説書と異なる点は，災害の実態と要因や，災害の素因である地学的特徴だけでなく，過去に繰り返された地震や地すべりが豊かな環境の形成に深くかかわっていること，そして今回打撃を受けた中山間地域が魅力と将来性をもつ地域であること，を解説している点である。たとえば，中越地方の将来性に関しては，スイスの山間地と中越地方を比較して営農条件において中越地方の山間部が優っていること，ヨーロッパ諸国の農業政策に学ぶべき点が多くあることを編著者は提示している。こうした視野の広がりや，人為が介入して作られている日本の中山間地の自然環境に対する総合的理解と，何よりも今現在苦悩している被災者に対する「まなざし」を反映したものであろう。それは地域に密着した研究を行ってきた，そして先に述べたすぐれた医者と通底する，著者らの研究姿勢を反映しているのではないだろうか。実効性のある災害軽減のために，住民参加型の災害対応態勢構築の重要性が認識されつつある今，本書は災害対策を考え



る多くの人に示唆を与えるものではないだろうか。災害オタクや地学オタクだけに読まれるには，もったいない本である。

本書は，

- ・ 第一章 中越地震の被害の特徴
- ・ 第二章 中越地震発生の背景
 - 新潟の大地の成り立ちと中越地震—
- ・ 第三章 一九年ぶりの豪雪が被災地を襲う
- ・ 第四章 中山間地農業と土砂災害
- ・ 第五章 災害は「弱点」を的確に付いてくる
- ・ 第六章 新潟の地震災害予測

の六章で構成されている。

どの章も一章で完結して読むことができる上，巻末に用語解説もつけられており，地学を学習したことのない人にも容易に理解できる内容となっている。その一方で，災害を手がかりとして新潟県の地形・地

質・気象と古地震・災害史から地震予測の現況まで俯瞰できる、地球科学のすぐれた解説書でもある。値段が手ごろであることと、中越地震を印象づけた写真が口絵としてカラーで掲載されていることも相俟って、この地震とかかわりを持った人なら誰でも買いたくなる・買って損はさせない装丁と中身となっている。さらに、調査体験に基づいた地震防災の要点が的確に挙げられているため、防災行政に関係する人に自信をもってお勧めできる。

もし、この本にあえて文句を言えといわれたなら、あとがきに記されているとおり地震発生後1周年を企画して出版される予定であったにもかかわらず出版が遅れてしまったこと、および第六章に触れられている防災対策と地震の教訓については別章を設けても良かったのではないか、という二点を指摘したくなる。

しかし、前者について言えば、連続災害に見舞われた新潟の実情と第一線で研究・啓発活動を行っている著者らの日常から考えて全く無理なお願いであったとしか言えまい。後者の文句は、構成よりも内容で評価すべきという当然の反論に耐えうるものではない。

最近、災害科学関係者の間で防災教育を義務教育段階で行うべきといった声を耳にする。私も全く同感である。そこで本書のような幅広い視野をもって書かれた、濃い内容の概説書が教材として使われるならば・・・と思った。

最後に本書を一読して、改めてこの地震に耐えた人々への敬意を呼び覚まされ、同時にいまなお再建途上にある人々を応援したい、と思った私の気持ちも付記しておく。

地質情報研究部門 小松原 琢